

20200709_農業ビジネス研究会_議事録

日 時：2020年7月9日（木）19:00-20:30

場 所：Zoom

テーマ：オンラインきき酒会／第2回 「能登のお酒と里山まるごとホテル」

ゲスト：山本 亮さん（株式会社百笑の暮らし 代表／

里山まるごとホテル プロジェクトマネージャー）

参加者：15人

（NPO 法人理事長、財務コンサルタント、ビジネス研修講師、会社経営、大学教員、会社員、団体職員、大学生、税理士、行政書士、司法書士など）

目次：

1. 里山とともにある暮らし
2. 里山まるごとホテルと発酵食
3. 新型コロナウイルスの影響とこれからの展開
4. 今回話し上がっていただいているもののストーリー
5. まとめ

発表：

1. 里山とともにある暮らし

「茅葺庵」が里山まるごとホテルの拠点になっています。大学地代、東京から10時間以上かけてたどりついて、茅葺庵に出会った感動は忘れられません。そこで見た縁側からの風景、田んぼから吹いてくる風の心地よさ、囲炉裏を囲んで聞いたおじいちゃんやおばあちゃんから聞くお話しは、「里山とともにある暮らし」を志向する原動力になっています。

里山とともにある暮らしでは、自然と寄り添いながら生きていく力をコミュニティで融通し合っています。これこそ、豊かなくらしだと感じています。茅葺庵のレストランでは、野草茶をフリードリンクで提供しています。どくだみ、たまねぎの皮、かきの葉、よもぎが入っています。健康茶は健康に良いけど、美味しくないというイメージかもしれませんが、この野草茶はそんなことはありません。74歳のスタッフのおばあさんがペットボトルに持ち歩いているぐらいです。昔は体調が悪いと、身近の野草で整えていました。身の回りの自然で、体調管理ができるのです。大学時代、こうしておじいさん・おばあさんの知恵を聴くたび、自分自身がそうした暮らしや文化を引き継いで、実践していきたい。そのために移住したいと考え、大学卒業後、5年間、東京でまちづくりコンサルタントを行い、移住をしました。移住した今も基本的にその想いは変わりません。それを仕事にして、お客さんに提供しています。

2. 里山まるごとホテルと発酵食

里山まるごとホテルは、イタリアの「アルベルゴディフーズ」のようになっています。地域全体をホテルに見立てています。たとえば、お食事処から宿までの道がホテルの通路となります。宿は地域に2軒あり、民泊型と一棟貸し型です。一棟貸し型は間もなくオープンします。能登産オイルのマッサージ、サイクリングを楽しめるだけでなく、お薦めの場所をご紹介します。例えば、能登には、「いしる」（魚醤）などの発酵文化があり、蔵見学のご紹介もしています。今年の2月には発酵ツアーを開催し、発酵食ナイトをしました。能登ぶりのしゃぶしゃぶがメインでしたが、酒粕ベースのお出汁をつかうなど今回ふぐのいしる干しをつくってくださったのと吉さんに料理を担当いただきました。能登は、千枚田、朝市を巡るようなこれま

での大型観光では伝わらない魅力があり、それをコーディネートできるようになりたいと考えています。発酵食とお酒とのペアリングも研究中です。今回、お酒の販売を担当した奥田酒店さんは、ECによる発酵食とお酒のペア販売をスタートしました。

3. 新型コロナウイルスの影響とこれからの展開

新型コロナウイルスの経済的影響が出ています。4、5月は営業を自粛しました。6月からぼちぼち再開しました。土日は観光客もいらっしゃいますが、平日は厳しい状況です。全体のお客様の数は少なくなっています。少なくとも1年は、この状況が続くだろうなあという感じです。とはいえ、田舎は固定費が低いので、カバーできています。なので、1年は新しいことの準備期間と捉えて、年配のスタッフもいますので、休んでいただけるように営業日を減らしながら運営を行っています。

コロナで変わったこととして、今までは、宿を5、6棟造ることで訪れる人の数を増やすことに意識がいていました。しかし、そうではないと考えています。数よりも訪れた人との縁や関係性の深さを築くことが大切です。田舎の家庭で交流して、お食事を一緒にして、ホテルを見に行く。そんな生活をしているかのような雰囲気大事にするのであれば、今は3棟ぐらいで営業すべきと考えています。

4. 今回召し上がっていただいているもののストーリー

今回、「輪島ふぐいしる干し」を召し上がっていただいています。輪島はふぐの産地ですが、水揚げ量の国内ナンバーワンであることはあまり知られていません。また、お酒は、数馬酒造の「竹葉」を召し上がっていただいています。こちらの酒蔵は地域の持続性を守ることを考えています。お酒を飲むことは地域を守ることになります。いかを美味しくいただくためのお酒を造ったり、海洋深層水で仕込みをしていたりしています。里山まるごとホテルは、お酒造りでコラボレーションする予定です。稲刈り、仕込みなどの参加体験の企画を一緒にできたらと考えています。

5. まとめ

里山まるごとホテルは、積極的には地域を巻き込もうとはしませんでした。合意形成を重視するやり方ではなく、「やりたいことをやらせていただき、それに共感してくださった方と手をつなぐ」で進めました。2018年から、自分の事業として会社を立ち上げ里山まるごとホテルを開業し行いました。ホテルと言いつつ、この2年間はまずは飲食を柱に進めました。2年目で黒字化を実現し、飲食が軌道に乗ってきたので、宿泊へ展開しようとして一棟貸し型の宿の開業に至りました。理想形を描きながら、自分たちのできることからちょっとずつ進めています。

以上